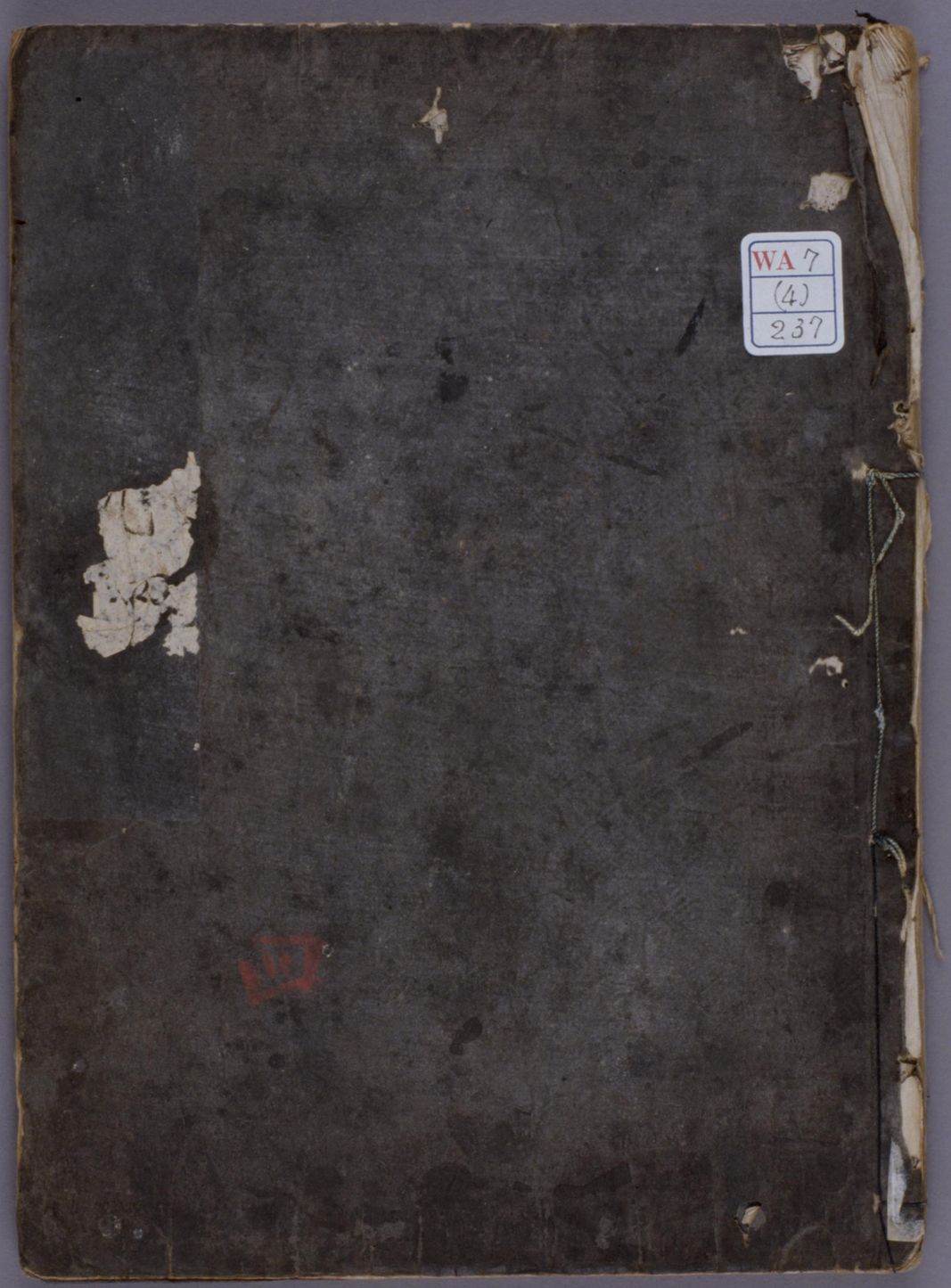


WA 7
(4)
237

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-001

国立国会図書館

帝鑑圖說卷第四目錄

葬楹旌直
賓以禮故人
拒関視布
救命薄葬
賞陳項令
臨雍拜老
愛將良宿
君臣奥水
棄末教示倹

漢乃高帝
漢孔光武
漢の光武
漢乃光武
漢孔光武
漢の明帝
漢乃明帝
漢孔昭帝
晉乃武帝

昭和十二年八月 日
山口藏書印

書 12.11.10 国会図

00W30931

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-002
国立国会図書館

善施旌直

漢文帝時有人盜高廟玉環捕得將誅之張釋之爲廷尉奏當棄市上怒曰此人盜先帝器當族之釋之曰法者天子所與天下公共也今一人盜而族之有愚民取長陵一抔土又當何以加陛下乎上良久曰廷尉當是也

昭和十三年八月四日
小口誠太郎氏寄贈

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-003
国立国会図書館

まうりいせひろくんしまゆーまぬだものんくにかく
らひて君うふちうみをいてさるやをろうなるかた
うやまく小櫃里縣乃令に朱雲と申ふ人あり張禹が
ふちうをおくこのうとも紀天子れ敢に志こうして
ちよ宮にんれそのまより朱雲一人をてこいでおく
ふこへそうらんやくろうも禹ずもくく斬る乃劔を
りくそれずーにまひりの倭れくび成
きうそれ代乃ふ下れ乃んせーめにをんとアせーかで
成帝きうーみされてあり殿乃うみそも倭臣とハ
これうらんとありしうお朱雲アまうもそ安島侯
張禹かり成帝きうめーおかひみいうら殿乃ひて

作也きうそなんしふ乃ぶんとしてなんぞうが
かうが師匠張禹なもびかーむろぞやふことふそのか
ゆうおかひかりあちもまちもざいふおとかりん事
いうでうゆうをおきそやおまうろへとありしう
もれまへ乃人をうけあまうろやーひくをるかち
朱雲なの紀たてくお殿れもをへそさんとに御う
ふ朱雲れてんのまへ乃らんかんにとうはさて死そ
とうもうるをまーとふもうるをとうに朱
雲をの紀そうばはあふらんかんとの紀行りぬ
朱雲をおもちさんでいうくむーまれ樂王と龍逢といふ臣下をあーし殷乃紂王を比干といふ

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-004
国立国会図書館

忠諫をこのろー話あるそのおそく
君位いさめよにより申ぐるれをふとるとやは
まて地下よりなぐめの於達吹手とくもうー
そんて忠義の思となるんこうそまで孫がよ事あり
あぐうむらくや配明乃君うやいるどる係る
ひうれぬ連たけるあこうあやまうぬ故よ威帝も
ありくまれをいうめたりとりくこそまて
りうなれこのよ紀はまへうちんなうくうだ将軍
辛慶忌とやうの集雲ぐ事をふく列かんもりを
とううう巻をかるむはけきへ申あげまうもそれ
集雲ととうう公しやうちさまうりのあれぞれ敢

なをそぐうそか属うのるをうりあぐくゆう
志須ふ属ー威帝地よりこうめーはあふいうまを
属め集雲をゆるーふとうやうそまなかのらん
かんのおれうを條理をべぎやうよ威帝ー
おう多ひ宝あそひらんかんうのうぞうあ條理
をべうず者ぐうのむまくあ事をあ門めくあのあぐ
めいそのあとをやぐめてあれぞ集雲がひ紀おう事
忠訟ん風ぐあるるうーめんがあありと係
あうとのくそはうふをぐひてありくり

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-005
国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-006
国立国会図書館

賓礼故人

漢の光武皇帝よりして一人のみうどありいまぶ法ともろもろの一ものとはともものの一ものとはともものの一ものとはとももの

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

世をのがまそでいろ〳〵なる事をおりひいふさ秋をよびいでさんとそあまたゝ
ひろをかくら秋ひて方〳〵秋あの孫へだもおひやうれおのこのり筆乃岡れさ
ひ乃うちよはうをこれてういてまりあやし屋されめてあらんとてのようくゝ
そうりんを光武さう発さ
ひ一さゝめて厳光なるらんとそ
むうをけく玄纏れあいくをそなをて関程よめき
まーうどもはあよまいふ事ひ一光武びうゝや

おがめ一こ度までちくく
あへう孫あにるうやこへいうりう光武めつ
りをおり一発いう紀厳光よあいめんせんとそ
うでけなくも厳光が寝所へみゆきあ而厳光ちの
とにらふ一面どろそいてるを御門これまで
御あのりあさそうへたあいとあめどうちゆーてそ
いるひう光武ちきう厳光がゆーするしゆうの厳
ふちろづゆのひてうでけなくをはをり一あ厳
光がそうをおでうあいろに厳光をものをうけ
あんし秋裏おり宮よあ一天下れまりおとをなう
発こ次第一なんじ今世よいへくこばうがたそけ

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-009
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

賓礼故人

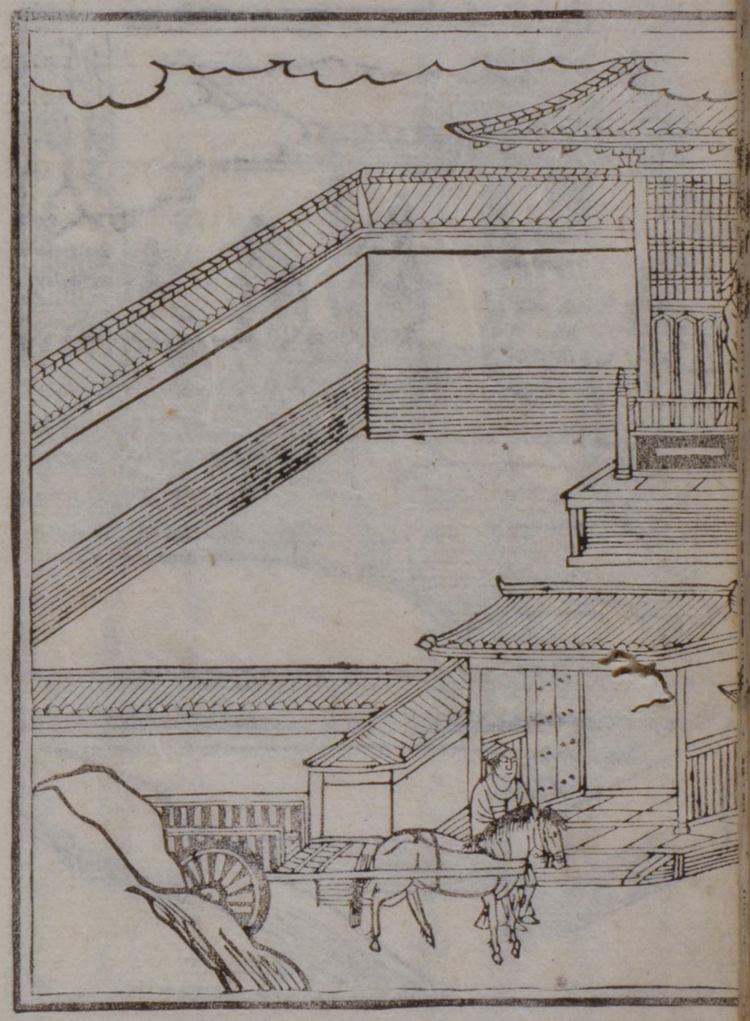
とも人嚴光と昨夜ねかの一ゆへ天を
うんど海一ものをかとれ多のあうこそをとりあれ
それ光武を天下れ主うり嚴光やいあ一こ筆跡乃民
あれども光武嚴光が賢人多ら故ものでーをあり
めーよそいみーあれともたそをひて嚴光をめされ
いあども光武をこーもあやーこなりでこでいん
ぎんにまいをはくせう漢り来漢代二百年れうち
人のむもとるをよしあに義乃みちをあのお事そ
光武れ賢人をうとびいあ一またそでこてうち故
おこのひ跡ふゆへでんうんあれよあうへでをり

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-010
国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-011
国立国会図書館

拒関殤布

漢の光武帝位る日れ事ありてへはいそ
うくて来ふけてうへら燭をひかり完武東門
よりいらせたまひしかど東門乃守官至慙
申をものうくおもひてひらきはくらる海を
やめそまりふ光武このよし御覧してあれま
ことにたとりありり夜中れ事ありてあれを
あとへをりうあくめんがこびうが名をうり
てうんをあけよといふらめやとうく扉よあやし
ありふ故へりんをさばうとおぼえうそのまゝて
あろならばうるくに門乃を紀まより面とうせよや



あり殊ろうひ申のくれともろくを
我もくやをとゝみいぞて門のを紀海をうぐひあい
ふりたてく面をうちへ乙せられを郢憚やう
申うとされ夜中れ事なれで史乃ひかりうそかに
ふをよゝみ沼那とそさされうを東中門へいさ
里給へださうのうに門をもうきひくは事ぬいれそ
まの向をそふその夜るあけぬまを郢憚みいさめれ
文次うさ君へそうらんやくりそれ文ういくく

君万条れまりとれくうあふかまりくくてとをくふ林
乃将をそのもを一日れ日をとゝかくとちく夜をは
ふ津ざ将事をいうなる事やらん老そは方を
かろんど将ふともを天下なんうんきをおそんじ
参そまの面るのれいうぐあろなさやされけざう
里をあんぞれでいうぐめをおさぐらんや光
武このようをはらんしそあらく郢憚がいさめをは
よろもびありくくてうぐけなくをぎよかんの乃
まりふ柳百迄そうびよそされ郢憚がちうせの世
ふふうえ里さそ又来中門乃寺高ハそうなくうんを
もうさそのはとめゆうう映ろにうう泰封乃尉と

初ころあをの紀を郡一統ふれおこんみれを望
城乃門をさんせいをりともびもうしてうう
夜中をはくーむだーいちんや天子万象れあの
紀ころあ城えそうろくーをお入海ーます事
もれいまーむねさと孫あり故よ郎憚うくくりを
とぢて天なれはころはをいれぞこれ君あう事城
もろびうりあうをまこ城いさむをさたあやうや
光武を文郎憚が幼をもろーめされてすうーもびき
ほんあーまさをうあのてをうびをそざこれろうる
よよあびうれ事やうや

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-013
国立国会図書館

敦分遠理

漢光武帝勾踐ノ
公孫勁ヲ乃ウチ学問
トヤウニ書五經ヲ
ハクマイ日夜ヤスマ
勿ラシムルヤウニ
ヒヌ
ノマヽニシテオクベシ
ヲ知ラヌ人ニハ

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-014
国立国会図書館

かくらんおこさゝるやうにそなへ給ふべきことわりなり
ゆゑにかくのごとくなるべきことわりなり
こゝをもつてよろづのことにうそいつはりなくまことをもつて
ほんとうとし
のおほいさをもつてしるべきなり
ふとりつへどもがくなくあんらくにしてそのみをやしなひ
ほんにくうそしてはなはだしきものなり
小なされば
帝鑑図説 巻之四

おもひまうけなくもかくのごとくなるべきことわりなり
ゆゑにかくのごとくなるべきことわりなり
こゝをもつてよろづのことにうそいつはりなくまことをもつて
ほんとうとし
のおほいさをもつてしるべきなり
ふとりつへどもがくなくあんらくにしてそのみをやしなひ
ほんにくうそしてはなはだしきものなり
小なされば
帝鑑図説 巻之四

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-015
国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-016
国立国会図書館

寶瑩項令

漢乃光武皇帝初即位之紀董宣為洛陽令宣為政嚴明豪強畏懼有湖陽公主者光武姊也乃恃勢驕橫白晝殺人於都市因匿主家吏不敢捕宣待其出擊殺之主還訴帝帝大怒召宣欲箠殺之宣叩頭曰願乞一言而死帝曰欲何言宣曰陛下以柔德興中興而縱奴殺良人將何以理天下乎帝令小黃門以劍擿宣宣即以頭觸柱流血滿面因使強頸者兩人按之宣兩手據地終不肯俯帝以為剛直詔令出宣因勑主曰自今以後勿復縱奴為惡主叩頭謝宣謝恩而已帝以為剛直詔令出宣因勑主曰自今以後勿復縱奴為惡主叩頭謝宣謝恩而已

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-017
国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-018
国立国会図書館

こゝにて地に伏して、ぜひなんあげてお命のあやまりをのべ、みづから出でゝ光武へ降りたいぐ〻董宣をゆるし、御境ぢそくぐに文中へうち入ら殺あひて北虜うくゝ光武へ降りうへ海内まで光武あまねくうちそろそこまものうちに殺さんとおもひしうど董宣ひとり忠義ぶかき人と感じ天下乃至うの人をも殺さふとおぼしめし、乃ち御ふ度をもつて天下にお告げ給ふ事なれば、いよ〻公主乃ほめられしものから法度をおかしたるせんぜいうたれありてでう

かう色をとらせようとてくすし
薫遂(くんすい)ぬ地獄(ぢごく)ぬ絵(え)ぬ掛(かけ)ものぬ
色(いろ)ぬ生(いき)かしもむけぜ元武(げんぶ)ぬ
ほうろもびゃーくてうげなくも童寛(どうかん)ぬ銭(ぜに)
三十万(さんじゅうまん)くぐされりもあれりーてうやこの者(もの)ぬ
せんとうりーてこの者(もの)まで童寛(どうかん)をぬぢあをれてそ
とふもまくものなし

鑒雍蘇老

漢の明帝とそてみづから
はじめそはくらゐおつぎ
なされていかへ乃養老礼
賢名重郎を三老孔宮とし
礼をおこなひてう植栗
いうをまそうくのぐ堂上
もそうくに植栗とも書
栗が永みをてんまよも書
ふんなりぬそ書中れか
所をものよーかくやとい

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-020
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

臨寢拜先

そうもんさうまれをくとありのまゝ降雁橋門乃
ぶぶのぞく礼義を兄漢族をさくりの億兆人とこゝえ
をりそれ教化をもりとびくの人の幻をかんなうちる
なよりやこれふまさかあらさ

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-021
国立国会図書館

愛憐良宦

漢ノ明帝乃チ妓女ト閹人ヲ居ラシメ公主乃
チ数人ノ婦人ヲ侍セシメ公主ノ如キ尊キ
ヲ以テ明帝ノ如キ一人ノ妻ニ事ヘシメラレキ
ト雖モ敢テ嫉妬ノ心ヲ懐カレズ常ニ恭敬
ヲ尽シテ明帝ノ御マヘニ出ラルヽ時ハ必ズ
ソノ衣ヲ整ヘ粧ヒヲ飾リ然ル後ニ出ラレ
タリ明帝ソノ賢ヲ愛シ給ヒ常ニ公主ヲ
ホメ給ヒケルトソ

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-022
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

あり物流あり久しうして天工より勅使乃至有
ようにおのおの列宿よりして百里ばかり地生ぜ
うさぜる処なり故に久しうして勅宮のくうあり
ぬく成り物あんぜるゆえ勅宮ともよくいうなきま
あるぞこぐりの人生をもらのそなたにありそ
人をとうとうて叶宮とさづけをなしてまつやまりてま
ぶれ人生をもちゐて勅宮よりうをなる百姓乃
乃害を除いて命をあれむ事あるゆえに
主ぶれまい賢人やうも愛人とも我いうものごとう事
故に勅宮乃くらおほ扱さづけぞと仰ぐくことそ
くりありそれ禁中をさほけ職をまうけ事ハ

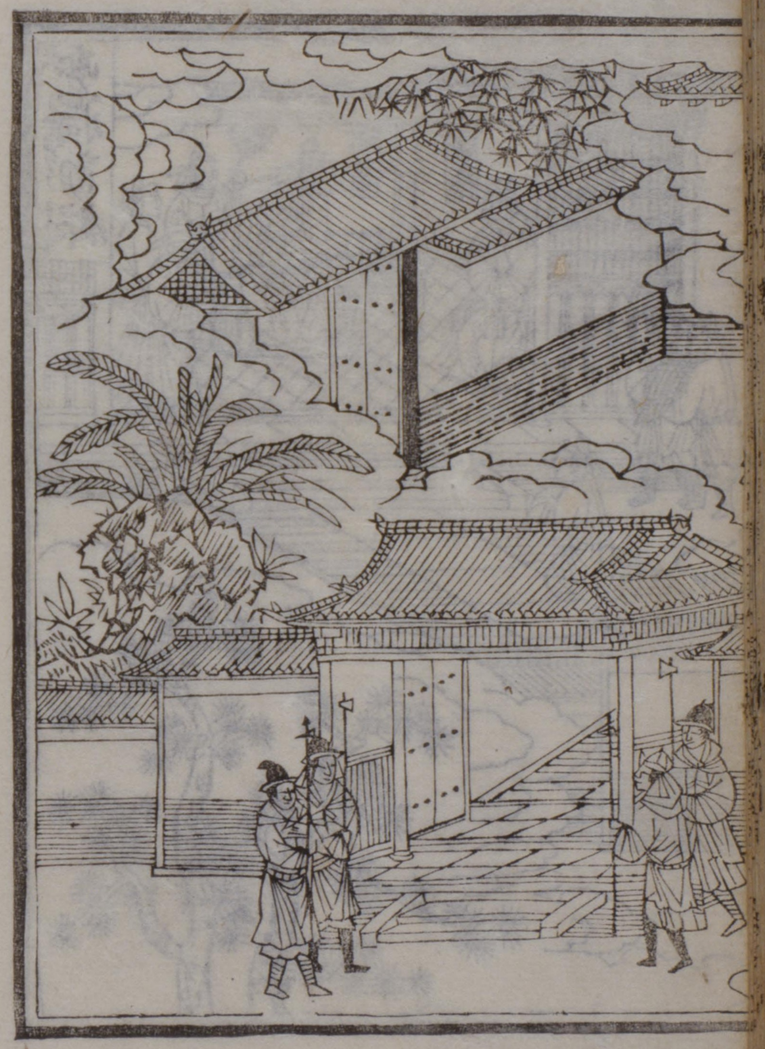
おりくとぶれみ乃たあり明帝そなぶれみに
千貫の銭をあるえそのあをありまた去おへど
みざるに勅宮乃くらおほ扱さづけあまりどぬことふ
いのへれ配王の宮爵をおもんト名誉をあむ
乃うく扱さえ給へりきく人をうんどりくなぬ
ものくありくり

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-023
国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-024
国立国会図書館

君臣奠水

諸葛亮とゝせうその主前覇者れみちをたゞくなくちくろうおとなれどゝ襄陽乃隆中といふところゝ世をさけれいんきよしてありくそれ劉玄徳ものがいくたびも人をつかはしてまねきけれどもいやとをりにて外おとゝうちに蜀乃國君よ先主列備かやとをりにて諸葛ゞ名をきこうめおよごれたゞ逢よび邸てうろ玉顧まりおとをもろうく次第とゝびうゝ隆中へゐありて諸葛ゞんとあり玉訪ふろうとをありくものびてぼあうんろい玉逢を海りり



帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-025
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

我が劣をたゝんどていでく君よほかふかをねう
そび先主おくる孫小勇へうてこ度まそれいそてあり
もろく孤葛先主れ劣をかんじてはあふいでくうん
らもいーおれうり先主の臥下とうう孫うり孤
葛がくうり里ととをうりて魏れ國乃曹操をせめ并乃
ふをとうる先ふようりて先主いよく孤葛没おうんじ
よろび孤葛がおとだにもろうびあけそれおをだに
ちうづけうひて國をおさめんとうりおくをうびよ
うり劣んなされうりあうる向よ先主れちんかふ関羽
張飛かをーて先ず二人あうりうがふこうり
りもおらまくなそそよこ心れうちにようろこそ先主

おのよーこうーめーて関羽張飛かふむかひて仰せうう
めそいうにおんじらをのをうけ我諸葛先主ちおる向
まーい奥乃水よあ向がおうおうーう奥七水よひうざれで
うのうず死をされ孤葛をうちおうる事も奥れ水に
あろがごとーうり孤葛先主をちおそいうでう國を
たりひをやなんじらうけうやな心をおるじう
ちく二うび漢乃てんうをおこさんとおうり那ばふ
うくちの孤葛先主ちおうこれうり
かりおんいよりしてなんじら二うびそよむ事
なうれとおかせ々ふうとうりおうり先主孤葛と
もうーこのひてだんで孤葛にちうう孫ーかて

帝鑑図説 8冊 WA7-237 04-026
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

うまをよく水稽をいぐるて魏とうくみ蜀をゆりて天
下をこの内のその一つをたりち先主乃いせひせ
ちうんにもろ事これみる諸葛がもりもとう
よりてありまを先主むりて
はず太子をたあてうくちう
諸葛亮後よ出師乃文を二つ
まつうよむとものあれ此かんじ川くなんだをかがさ
げうねりぬことなうう卿諸葛がう孫先主代御
おんをかんじりく公をはくしまを南のしてちう
かう此をげあ一をまま此乃をそあてまりらど君臣乃
みちあさうう卿なりげまう元にまさふ

国立国会図書館

焚裘示倹

晋武帝とりて御門一人ありはべりけれ御
ふつゝかなる程擾とやの雉れり一羽
毛をもりく裘をおりり武帝小毛をたそまの面その
裘乃なる御のなる事多くへんかるさきありくり
武帝このよを治給ふ事ありめされ
まろをもつこはうふおりりめされ
うんよいてこ面まぞいび退もおれ就まるの川くさぶ
めくらをまいをこのむ尽ちよせん此裘をなよう
をんとおり御ふるかう作せつけられてお殿乃
はまへよ物のく史を

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-028
国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-029
国立国会図書館

面袖戒奢

宋乃高祖列裕いやしきがん枚みそなせりうども
ありふるごめがんぶみそなせりうども
もて世とともにくちおとろえさうらはんことをおもひ
深遠なりとてこれをうりてられをうりあがられ
嘗ありけるこれを免されてかの嘗なりける枚
次におよぶれおもひそれ嘗宿職氏をめしうう
又これを列ぐるに列裕よりもせまりうせうもな列裕
市門にそるりうへのかんなん

ゐまけくれおりひいさされてはるく汤ゝ汤ゞ
めとゐおいよゝろゝーて我がみ汤ゞくおかんゐん
せー事をうけくゐもちくろぞーゐさゞめてゐいらを
ふおごはゞーのゐをうちそんゝーはさへおさを傷
ぐく返れいまめ汤をゐきやうんやおりりめ
うのいゝへ衆されうろ例ぐ連いーやうを礼也
さうゐやうろ乃也むせめ舎鬱公主ふあうへゐりて
作也きうゝゐれよりが汤我がうそんゐいらをに
おごふをのはうぞなんじけいーやうをり例くはぞ
脇う者にもあーうおろいせいかんなんをーるを
乃せーめ家祀をものゝむうるかう連とゝゝちめ

ゐふくゐおとりりうそれ天下れ悪をう人ゐあこ乃
衣食にとがーるゐをもろ我が男乃ゐ引きをもの海
ざれかるらぞ家祀汤ゐのむをのもうみれたうを
うそひとり我一人乃なのーみとーたうをはむふ
あさをうゐ那しをーちゝはゐのうでゐこはゐに
とがーうーてなうそくおりくせふおろりかゝらぞ
天下みざゐおーゐこうふてんうのゐこゐう人衆ふ
家祀をこのまぞーてゐれたおりをいぞんで
天下太平ならん事うをがひをりうり

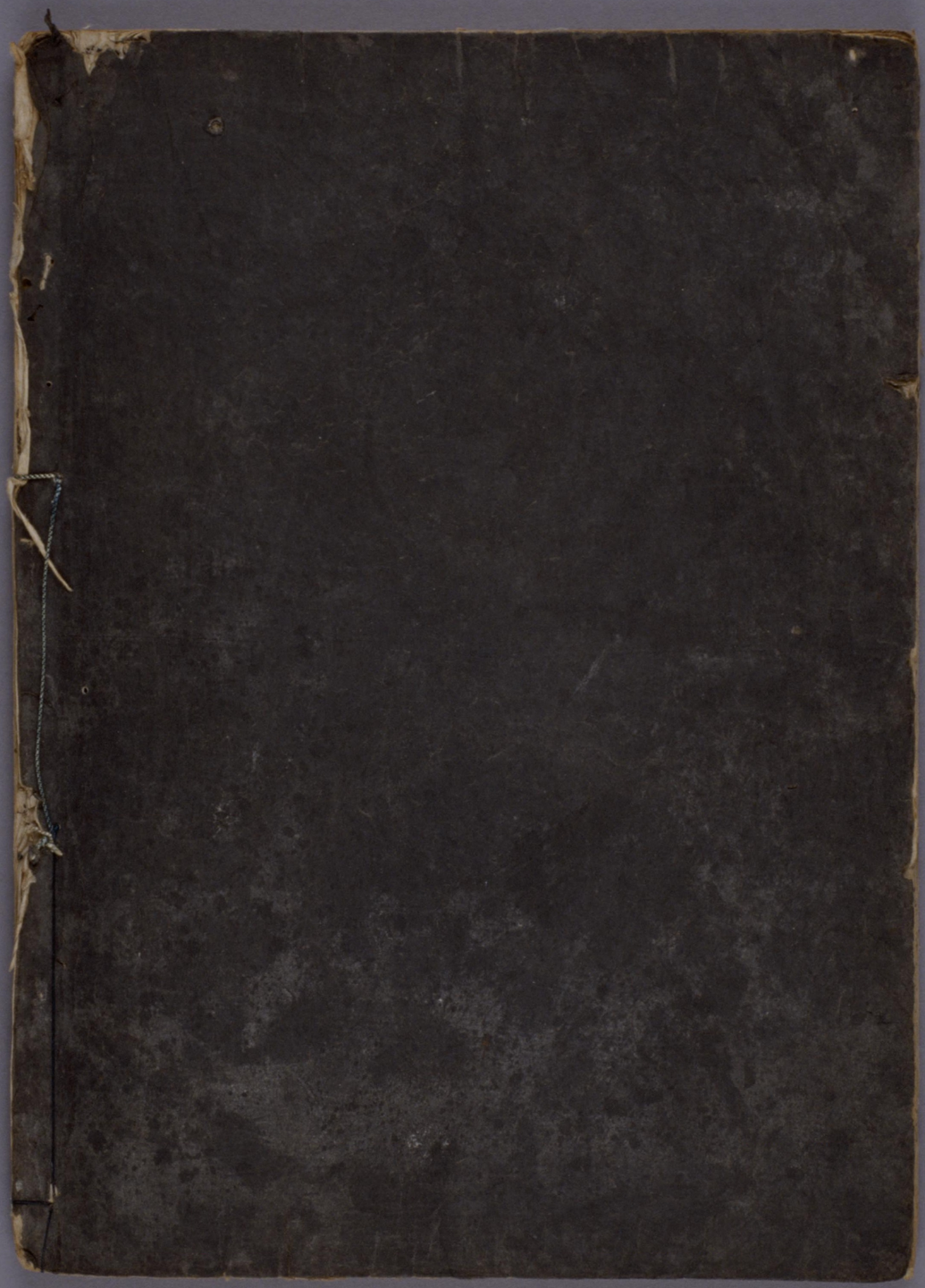
帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-031
国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-032
国立国会図書館

国立国会図書館

帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-033

国立国会図書館



帝鑑図説　8冊　WA7-237　04-034
国立国会図書館